

2009年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

鶏肉価格乱高下の影響が大きく加工食品と畜産が減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

2009年3月期の連結業績

単位:金額=億円(未満切捨て)	08/3	09/3(E)	09/3	09/3対08/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,635	4,798	4,745	+109	+2.4%
営業利益	173	149	151	-22	-12.7%
経常利益	168	138	141	-27	-16.1%
当期純利益	96	66	60	-36	-37.4%

1.売上高

09/3(E)・・・2009年3月期見込・・・は2月3日に発表したもの

- ①鶏肉の取扱いが拡大した畜産が大幅増収となり、地域保管とネットワークが好調の低温物流も増収。アセロラが大きく売上げを落とした加工食品は僅かに減収となった。全体では2%の増収。

2.営業利益

- ①加工食品は鶏肉などの原材料価格の上昇を価格改定で吸収しきれなかったことと、下期に業務用チキンの伸びが減速したことやアセロラの減収なども加わり08/3比21億円の大減益となった。
- ②水産は下期に価格が急落し採算が悪化したものの、通年では営業黒字化し08/3比7億円増益。
- ③畜産は輸入鶏肉価格の急落による3Q・4Qの損失在庫処理の負担が重く08/3比6億円の減益。
- ④低温物流は全体では期初予想を上回る利益となったが、燃油サーチャージ負担の重い物流ネットワークが減益となり、好調を維持する海外と地域保管ではカバーしきれず08/3比3億円の減益。

3.経常利益

- ①08/3比27億円の減益。金融収支はリース会計導入で支払利息が08/3比6億円の負担増。

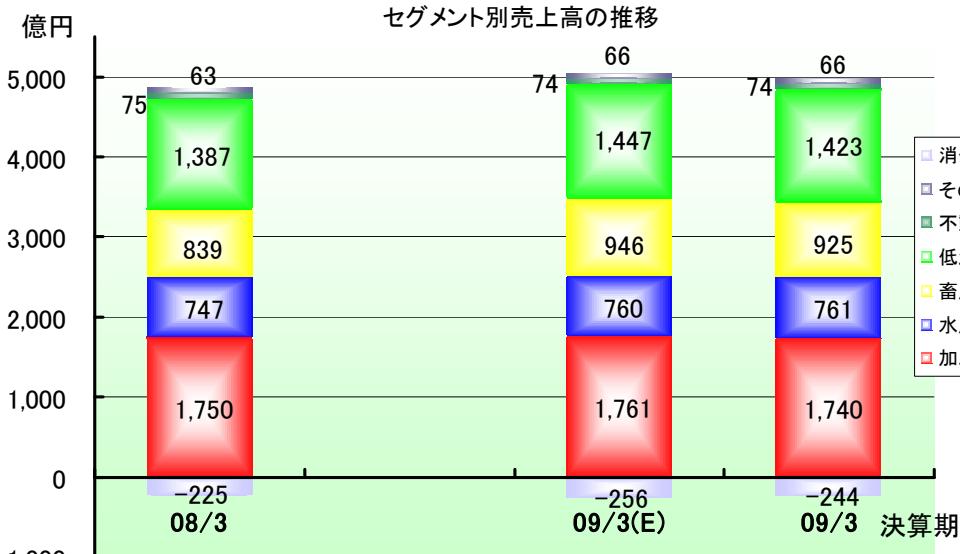
4.当期純利益

- ①リース会計適用時の一時損失17億円などで特別損益は24億円悪化、当期純利益は36億円減益。1

加工食品は原材料価格上昇とアセロラ減収の影響で減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)



1.加工食品

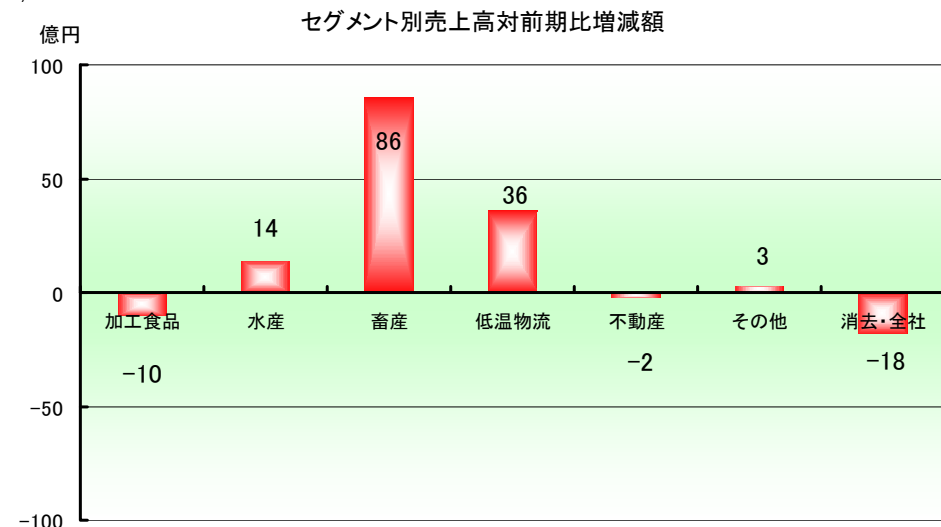
売上げは業務用調理冷食で下期チキン加工品が伸び悩み4%増収にとどまる。家庭用は微減収。アセロラの29%減収が響き全体では08/3比1%の減収。営業利益は、原材料価格上昇を価格改定でカバーしきれなかったことに加え、アセロラの減収、人件費や本社経費など固定費の増加もあり08/3比21億円の大減益になった。

2.水産

売上げは上期が好調に推移したことから2%の増収。利益面は急激な円高に起因した価格の急落により損失在庫の処理がかさみ、上期のエビの好調などによる利益を目減りさせたが、通期でも3億円の営業利益、08/3比7億円の改善で6期ぶりの黒字となった。

3.畜産

売上げは鶏肉の取扱いが拡大し10%の大幅増収。営業利益は上期稼ぎ頭となったブラジル産鶏肉が下期に大幅に需給が悪化、価格下落による収益率低下と損失在庫処理の影響から通期で08/3比6億円の減益となった。



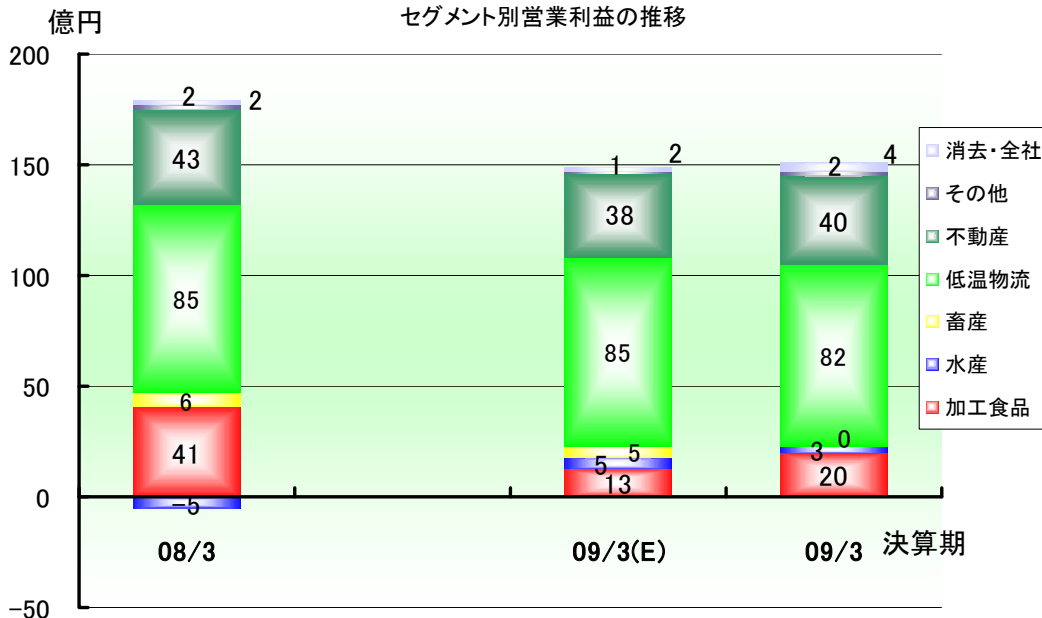
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

低温物流は取扱い拡大も燃油コスト負担で増収・減益に

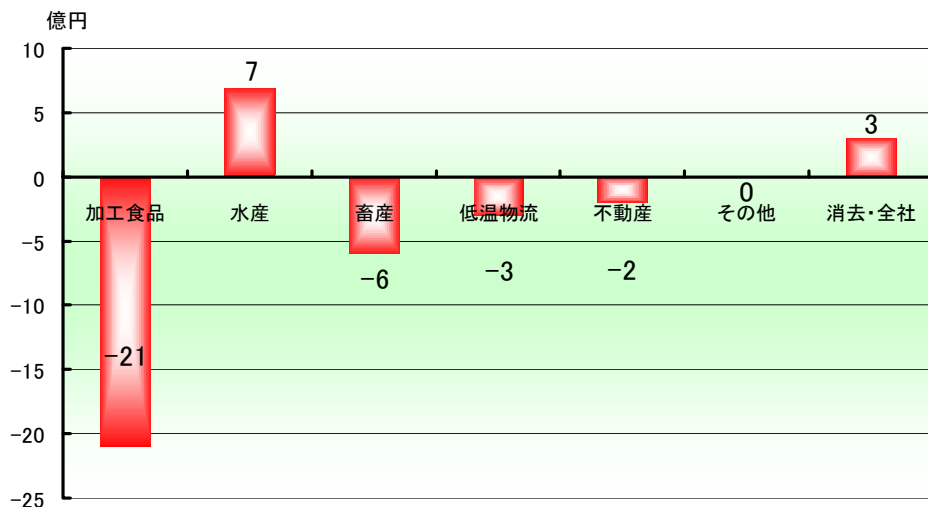
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



セグメント別営業利益対前期比増減額



4.低温物流

全体では08/3比3%の増収、3億円の減益となった。海外は欧州の冷蔵倉庫・フォワーディング業務ともに好調、4Qに入りユーロ安による円貨ベースでの目減りの影響を受けつつも前期並みの売上高、1億円の増益を確保した。地域保管は下期に入り景気後退の影響が入庫の減少など荷動きに影響し始めたものの、集荷努力もあり在庫が高水準を維持したまま推移し微増益に、売上げは08/3比5%の増収だがネットワーク事業からの拠点の異動の影響を除くと実質2%の伸長。物流ネットワークは運送部門で売上げを伸ばし地域保管との拠点異動の影響を除くと実質3%増収となったが、燃油高騰にともなうサーチャージの負担が重く3億円の減益となった。

5.不動産

分譲案件の減少にともない2億円の減益となった。

業務用は拡大するもチキンの影響で伸び悩む

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

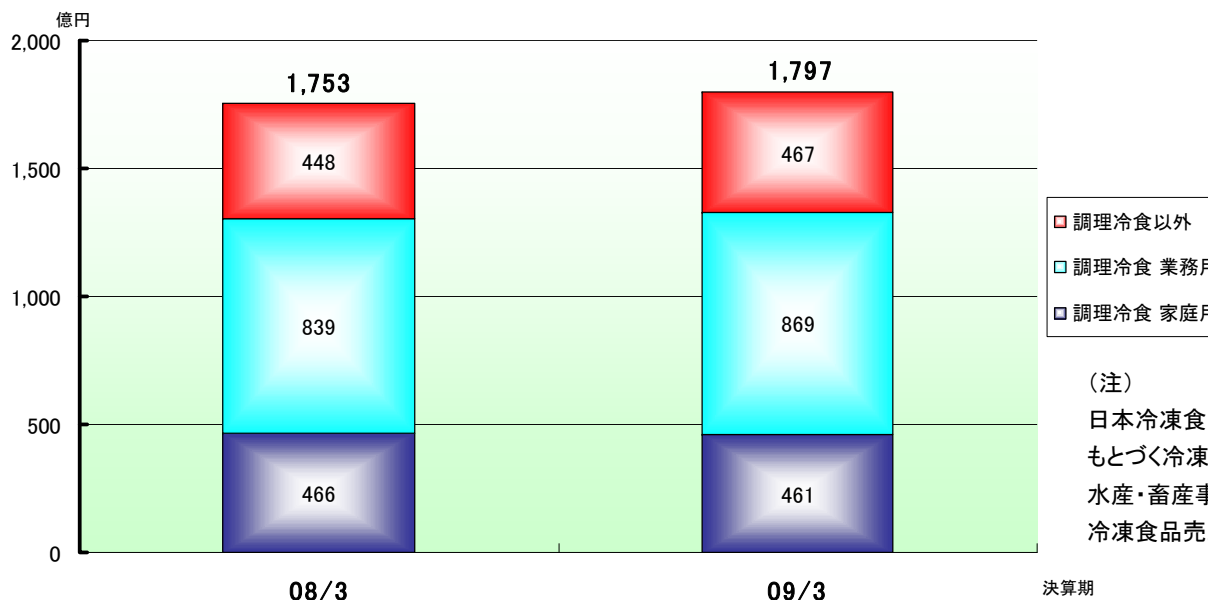
冷凍食品合計の売上高は08/3比3%の増収、調理冷凍食品では2%増収となり市場の伸びを上回る。08年暦年の冷食市場は調理冷食が前年比4%減。(日本冷凍食品協会調べ、調理品生産高・調理品輸入高の合計)一方で調理冷食以外では冷凍野菜は2%の増収、家庭用商品がいんげん事件の影響を受け落ち込むが業務用が伸長した。

2. 調理冷食

①家庭用:08/3比1%の減収。からあげチキンやえびピラフ等の主力商品が順調に推移したものの、1Qで餃子事件の影響が残ったことが要因。

②業務用:08/3比4%の増収となった。チキン加工品で2Q以降中国の輸出停止やブラジル産鶏肉の供給過剰などで伸び悩んだことが影響し期初予想を下回った。

冷凍食品売上高の推移

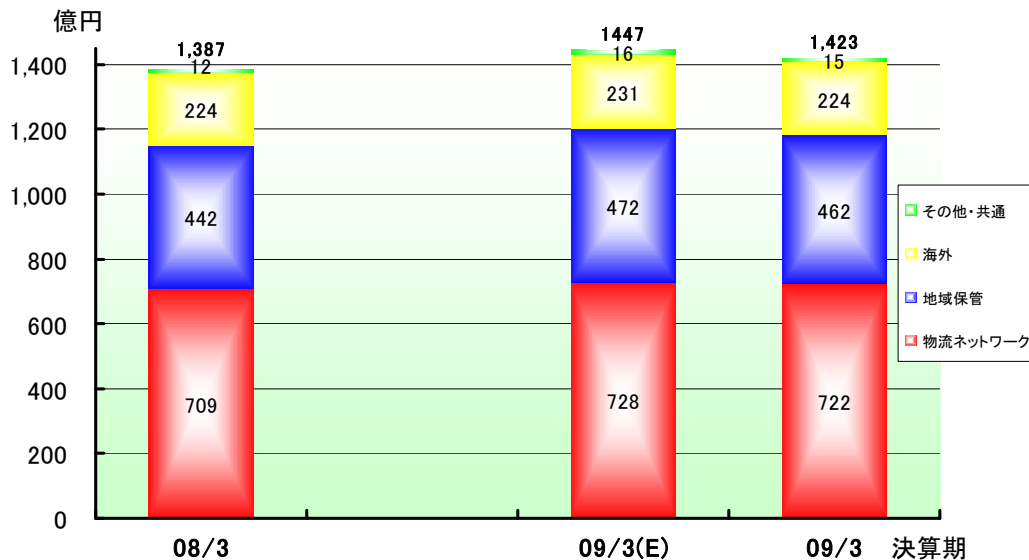


燃油費負担増で減益に、海外は好調だった前期を上回る

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



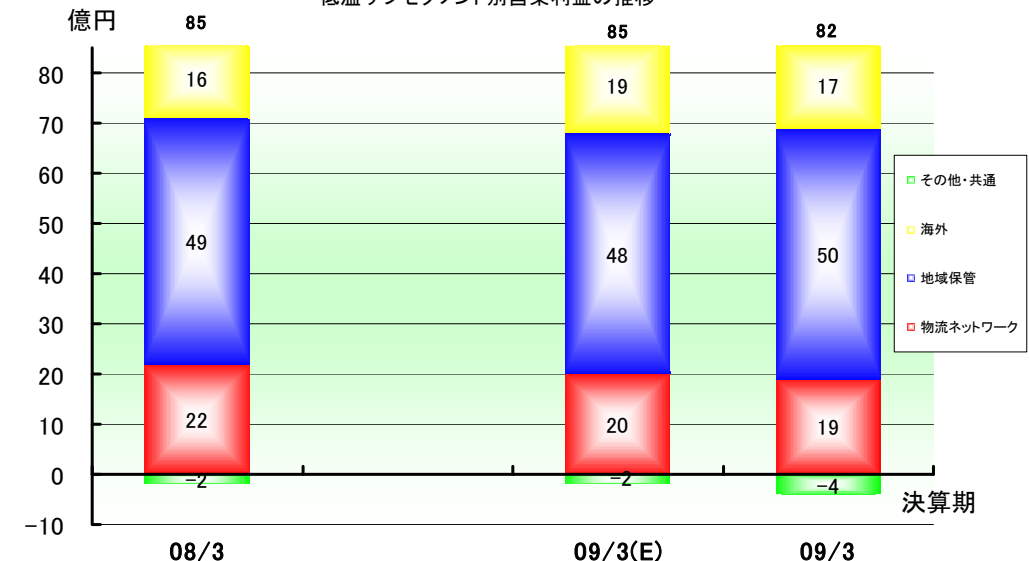
1. 海外

欧州事業が、ロッテルダム港湾やオランダ内陸部冷蔵倉庫への畜産品や冷凍野菜の搬入が順調に推移、フォワーディング業務も引き続き拡大した結果、現地通貨ベースでは増収・増益、邦貨換算後でも全体で売上高は前年並み、営業利益は1億円の増益となった。欧州景気後退の影響も懸念されているが現状では直接的な大きな影響は見られない。

2. 地域保管

業界では下期より景気後退の影響による荷動きの鈍化が見られ始めた。当社でも出庫の停滞もあって在庫が高水準となり入庫が滞る状況になっており、荷役賃収入の減少が見られるが、作業費の圧縮や変動費化などで対処し採算を維持している。08/3比実質2%の増収、営業利益は事業所閉鎖もあり前年並に。

低温サブセグメント別営業利益の推移



3. 物流ネットワーク

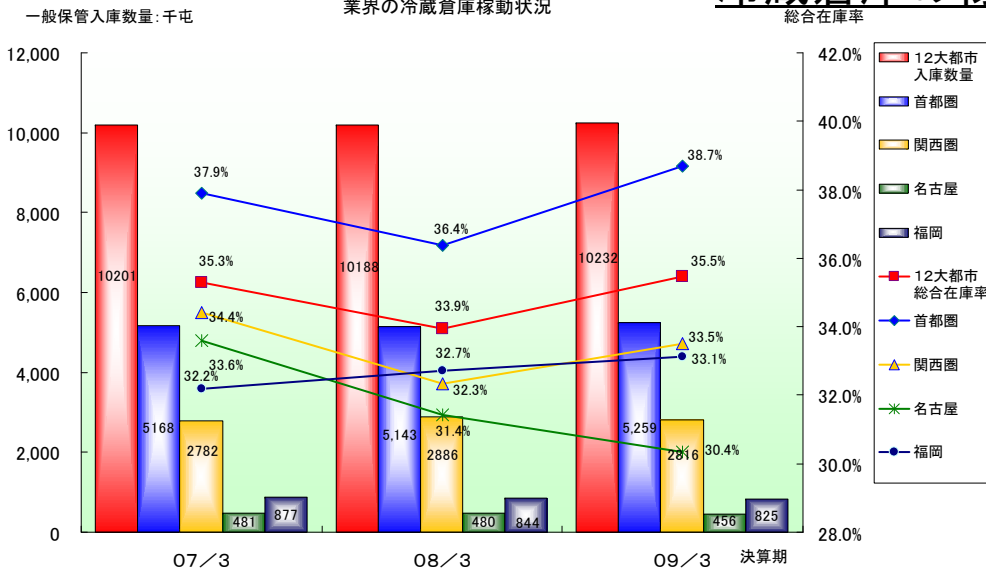
TCや百貨店物流などの伸長と運送部門の拡大で08/3比実質3%増収となったが、燃油サーチャージの負担が大きく3億円の減益。

業界は荷動き悪化で在庫率が上昇

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

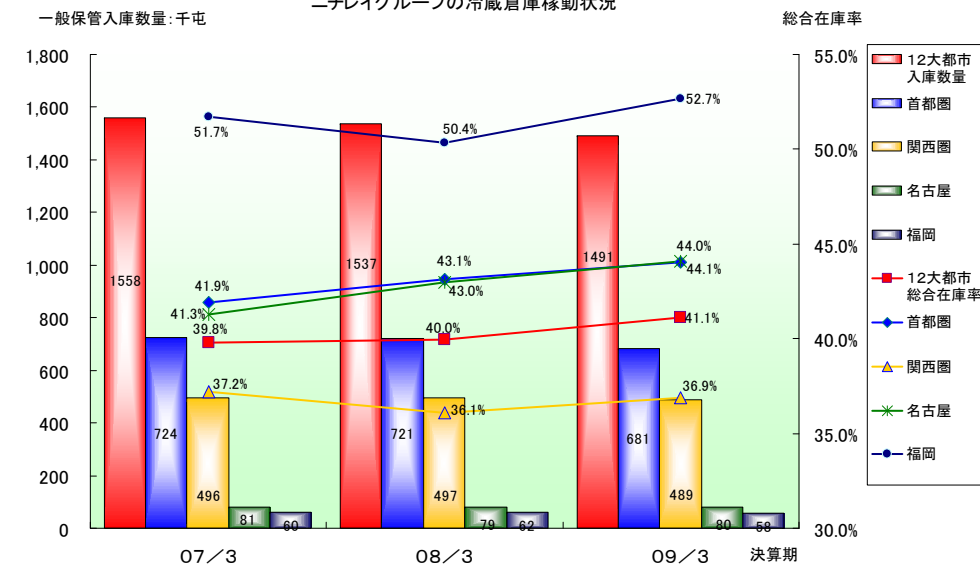
冷蔵倉庫の稼働状況

業界の冷蔵倉庫稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加

* 08/3期より12大都市に追加された札幌石狩地区、名古屋尾北地区は時系列比較の為対象に含めていない
ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



1. 業界の状況

全体の入庫量は前年並ながらも下期には景気後退の影響を受け荷動きが悪化した結果総合在庫率は08/3を2ポイント近く上回った。

2. 当社の状況

下期の景気後退の影響もあり入庫量は微減となったが、出庫の減少により総合在庫率は高止まりし08/3を1ポイント上回った。

3. 業界の設備能力

業界全体では1%の増加。
冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2009年1月1日 現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万トン	08/4比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	85	133	-1	12%	全国
横浜冷凍	42	70	4	6%	全国
マルハニチログループ	37	57	0	5%	全国
東洋水産グループ	17	33	0	3%	全国
日本水産グループ	16	32	1	3%	全国
五十嵐冷蔵	9	21	2	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
キューソー流通システム	23	14	2	1%	全国
ヒューテックノオリン	10	13	0	1%	全国
鴻池運輸	12	13	0	1%	全国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
兵食	7	11	0	1%	関西
ホウスイ	7	10	0	1%	関東
二葉	5	10	0	1%	関東
山手冷蔵	5	10	1	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	9	0	1%	関東、関西、九州
川西倉庫	7	8	-1	1%	関東、関西
東京豊海冷蔵	3	7	0	1%	関東
その他	1,334	658	658	58%	
合計	1,635	1,136	12	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

次期の社債・借入金返済に備え手元流動性を高める

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

09／3期連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

科目	08/3	09/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,030	1,165	134	①
固定資産	1,547	1,707	159	②
資産の部合計	2,578	2,872	294	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	812	1,115	303	③
固定負債	600	625	24	
負債の部合計	1,413	1,740	327	
純資産の部	1,164	1,131	- 32	
（うち自己資本）	1,142	1,109	- 33	
有利子負債	905	1104	199	③
（うちリース債務除く）	661	879	217	
科目				
設備投資額	-	139	-	④
（うちリース資産除く）	70	119	49	
減価償却実施額	131	137	5	
（うちリース資産除く）	94	100	5	

【主な要因】

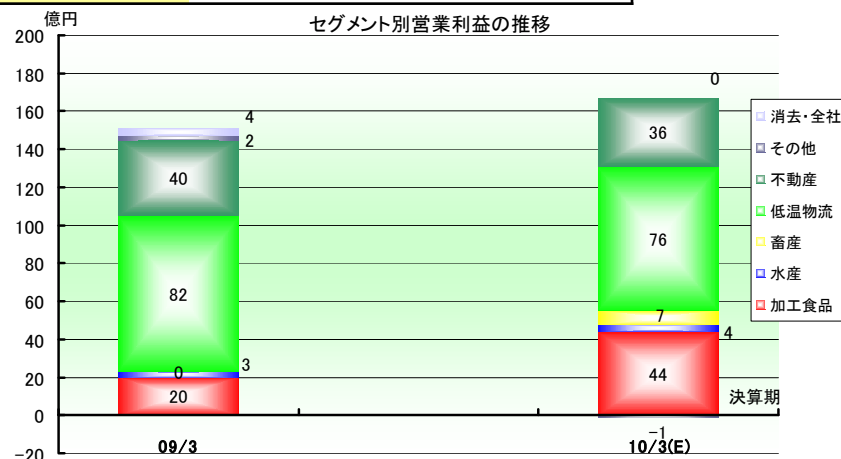
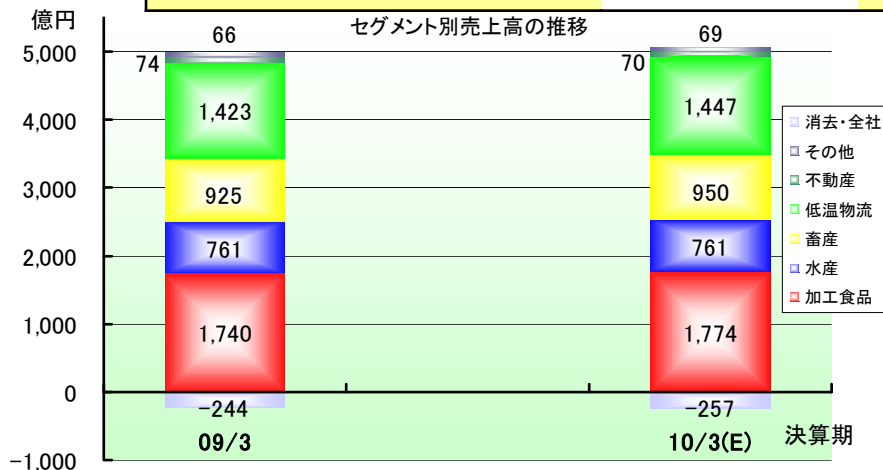
- ① 返済資金の前倒し調達により現預金が増加
- ② リース会計基準適用によりリース資産が増加
- ③ 次期の社債・借入金の返済予定に備え資金調達を前倒しで実施した。
- ④ 09／3の設備投資の主なもの：
（低温物流）
キョクレイ山下DC
ロジ九州福岡東浜DC
フリゴロジスティクス・ラドムスコセンター（ポーランド）

原材料価格低下と畜産・水産物市況が安定し増収・増益へ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

2010年3月期の連結業績見込み

単位:金額=億円(未満切捨て)	09/3	10/3(E)	10/3(E)対09/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,745	4,814	68	1.5%
営業利益	151	166	14	9.6%
経常利益	141	145	3	2.3%
当期純利益	60	77	16	27.9%



1. 売上は加工食品・畜産・低温物流が増収、営業利益は加工食品・畜産の増益が低温物流・不動産の減益をカバーし全体では15億円の増益となる。
2. 加工食品は、業務用調理冷食の回復が2Q以降となることと前期末のアイテム集約の結果から売上高は大きく伸びないが、原材料コストの低下と収益性の改善策により大幅増益を見込む。
3. 低温物流は増収。営業利益は運送の拡大と燃油サーチャージ負担がなくなるネットワークが貢献するものの、ユーロ安による為替換算の影響が大きい海外と景気後退による荷動きの悪化を見込む地域保管の影響があり減益。
4. 営業外収支は09/3比12億円の悪化、金融収支が6億円負担増。
5. 当期純利益は09/3比で17億円の増益。特別損益はリース会計基準適用に伴う影響額17億円がなくなるなど15億円の改善。

リース会計適用の影響もあり特別損益が23億円負担増

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		09/3対08/3比較			10/3E対09/3比較				
		09/3	08/3	増減	10/3E	09/3	増減		
【営業外収支】 (主要項目)		-9	-4	-5	【営業外収支】 (主要項目)		-21	-9	-11
金融収支	①	-12	-6	-5	金融収支	②	-19	-12	-6
持分法投資損益		+2	+3	-1	持分法投資損益		+1	+2	-1
【特別損益】 (主要項目)		-28	-4	-23	【特別損益】	③	-13	-28	+15
固定資産売却益		+6	+7	-1					
投資有価証券売却益		+0	+4	-3					
固定資産除却損		-7	-8	+1					
事業所閉鎖損失		-3	-1	-1					
リース会計基準適用に伴う影響額		-17	-	-17					

① リース会計基準適用に伴う支払利息が6億円増加

② 社債や長期借入金の返済資金を09/3期中に前倒しで調達したことや金利率の上昇を織込んでおり支払利息が6億円増加

③ 09/3に発生したリース会計基準変更時差異17億円がなくなる為

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	08/3	09/3		10/3(E)
		(E)	実績	
(売上高)				
加工食品	1,750	1,761	1,740	1,774
水産	747	760	761	761
畜産	839	946	925	950
低温物流	1,387	1,447	1,423	1,447
不動産	75	74	74	70
その他	63	66	66	69
全社または消去	-225	-256	-244	-257
合計	4,636	4,798	4,745	4,814
(営業利益)				
加工食品	41	13	20	44
水産	-5	5	3	4
畜産	6	5	0	7
低温物流	85	85	82	76
不動産	43	38	40	36
その他	2	1	2	-1
全社または消去	2	2	4	0
合計	174	149	151	166

09/3(E)は2月3日に発表したもの

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。